該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部1年 2部1年	保育原理		
サブタイトル	保育とは・保育理論の基礎を学ぶ	単 位 数	2
授業形態	講義		
開講時期	後期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
<p>1. 保育所、幼稚園、幼保連携認定こども園における保育の意義や目的、また、保育の内容と方法、環境、計画、歴史、さらに現状と課題について等、保育をするうえで必要な基本的事項を学ぶ。</p> <p>2. 子どもの発達や特性を学ぶ中で、現代社会にあった子どもにとってのより良い育ちとは何かを考えながら、援助の意味や保育者の役割を理解する。</p> <p>保育の基礎的な原理、原則の学びを通して、自分自身のなりたい保育者像をイメージできるようにする。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は「①乳幼児保育に対する情熱及び責任感を身につける。②専門職に関する知識・技能及び表現力を身につける。③多様な協働学習を通して豊かな人間性を身につける。」ことを目指す科目である。保育原理では「子どもとは」「保育とは」「保育者とは」について様々な角度から学び、幼稚園や保育所で集団保育を担う専門職としての知識や責任感を修得し、豊かな人間性を身につける。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>保育原理では、講義を中心に基本的な学びを修得していくが、内容に応じてアクティブ・ラーニングの手法を取り入れながら進めていく。また、毎回授業を通して思ったこと考えたこと等を授業シートに記入したものを教員がコメントを書いて返却し、次の学びへと繋げていく。授業内容によって視聴覚教材も活用し、理論と実践が結びつくようにする。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『保育原理 子どもの保育の基本理論の理解』 岡田耕一編著 萌文書林 2019年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年</p>			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
<p>定期試験、レポート、授業シート（授業後に思ったこと、感じたこと等の記入）の内容を総合的に評価する。</p>		定期試験	70%
		レポート・授業シート	30%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>授業中は積極的に授業に参加することが大切である。グループでの話し合い等では、積極的に発言し学び合えるように努力してほしい。保育者になるための初めの1歩になる授業でもあるため、耳で慣れ、目で慣れ、心に刻み、頭に入れられるように努力してほしい。</p> <p>授業で毎回、授業内容の振り返りをシートに記入し、しっかり読み返すことが大切である。レポート課題もよく考えてまとめること。定期試験は持ち込み不可の記述式である。</p>			

科目名 保育原理

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス ～授業の進め方、保育原理とはどのようなことかを考察する～	保育・保育者の仕事への理解
2回	保育の理念 ～子どもの最善の利益と保育～（児童の権利に関する条約より）	保育の理念の理解
3回	幼稚園教育の目的・目標・法令・基本原理を理解する	幼稚園教育の目標・役割・基本について理解する
4回	保育所・保育所保育指針について学ぶ①	保育所保育指針の総則理解、養護と教育の意味、保育実践の基本理解
5回	保育所・保育所保育指針について学ぶ②	乳児保育1歳以上3歳未満児3歳以上児の保育とねらい及び内容理解
6回	幼保連携型認定こども園教育。保育要領について学ぶ	幼保連携型認定こども園教育、保育要領の総則理解
7回	保育所保育の方法 ～環境を通して行う保育の必要性～	環境の重要性と環境構成の留意点・保育所保育の方法についての理解
8回	保育の計画と評価 ～保育をするということ（全体的な計画・指導計画等）～	子どもの成長を見つめる力・計画・実践・評価・改善の意味と理解
9回	保育の専門生と質の向上	保育者の質向上と研修の理解
10回	現代社会と子育て ～核家族化・都市化・少子高齢化・資料から昔と今の子育ての環境の変化を考える～	都市化・核家族化・少子高齢化の進行による子育て環境の変化の理解
11回	現代社会と子育て支援 在園児・地域の子育て支援の基本	現代社会の中での子どものあそびや環境の変化と保育者の役割理解
12回	特別な配慮を要する子どもの支援	障害児保育の現状の理解
13回	西洋の保育の歴史と思想	西洋の幼児教育・保育の歴史と人物の理解
14回	日本の保育の歴史と思想	日本の幼児教育・保育の歴史と人物の理解
15回	まとめ～これからの保育に向けての保育者の在り方を考える～	、今後の保育者の役割と資質向上への理解
試験	定期試験	